総　合　評　価

「自律した学習者」を育むために、教育課題「協働の学びの質を高める」に取り組んできた令和５年度の学校づくりを振り返るにあたり、１つの授業を紹介します。

１１月始め、赤坂先生による９年生国語の授業です。小中一貫教育の最終学年となる９年生の学びの質に注目しました。小説『故郷』を題材に「なぜ人は文学を読むのか」に迫る単元です。Which型の学習問題「君は『故郷』という作品に「希望」を読むか「諦め」を読むか」を解くために、自ら設定した問いを追究してきた生徒たちに、この日３０分間の友との対話の時間が保障されました。３０分途絶えることのなく対話を繰り広げた９年生は、次のようにこの時間を振り返っています。

○なんか一人一人持っている問いが違ったりするんだけど、そこから「諦め」「希望」っていう最終的な考えにたどりついていって、よくわかんないけど違うところから始まったのに、同じ考えを持っている人がいるのっておもしろかった。わからないって思ったことが補われる。
○いっきにわかんなくなった。ルントウは希望を持っているの？シュンはホルンとシュイションに希望を託したけど叶うと思って託したのか？それによって希望か諦めか変わってくる。
○話していると時々それたり、新たな道ができたりして楽しかったです。自分と違ったすばらしい考えが出てきた。
○共有すると新しい疑問が生まれたりつながりが生まれたりする。あと、自分の意見の根拠みたいなのが追加できて自信もできるし、逆に自分の意見に根拠がなくなることもある。話し合いっていいね。

友との対話によって、自分の考えが揺さぶられ、また新たな問いを持ち、さらに自分の考えを深めていく生徒たち。それと同時に、対話による自分の考えの変化を楽しんでいる９年生の姿が浮かび上がってきます。

この単元の学習問題はＡ生のつぶやきから全体で共有されました。右はＡ生の毎時間の振り返りです。次々に生まれてくる問いに主体的に粘り強く追究したＡ生の姿は、本校のめざす「自律した学習者」の姿に重なります。

赤坂先生の４月から取り組んできた「協働の学び」の成果であるとともに、小中一貫で「協働の学び」を貫いてきたことが、最終学年の９年生を確実に自律した学習者へ育んできたことを感じた１時間でした。

同じ時期に実施した全校を対象とした児童生徒アンケートや保護者アンケートからは同様の成果とともに、課題も見えてきました。全ての教科で全ての学年において「協働の学び」を進めることを共通理解して取り組んで来ましたが、今後も継続してベクトルを揃えて積み上げていく必要を感じています。

しかし、各学年・各教科で積み上げてきた小中一貫の成果を９年生の姿から見ることができたのは、今後につ

＜10/18　物語を理解する＞
今日は 登場人物をまとめた。あと話をもう一度読んだ。そしたら「紺碧の空」が2度出てくることや希望を道と喩えたりしていることがわかった。何が違うんだろうと思った。 希望を道と表し 、「道を歩いているとわかった」と言っている割には希望を偶像と言っている。なぜだろうと思った.。
＜10／20　心情＞
だんだん自分の気持ちが固まってきたので他の人に聞いて新しい問いを見つけたいと思いました。また、ヤンおばさんが 謎の人になってきているので、次はヤンおばさんについて考えていきたいです。読んでいくと何か孤独だなと思いました。ヤンおばさんは 何かに背いているのかなとも思いました 。また母は変わらないなと思いました。母の心情はどうなんだろうと思いました。
＜10/25　変化＞
語り手の心情が見えてきたかなと思いました。それと同時に 疑問も出てきたのでもっと追究していきたいと思いました。ヤンおばさんと母がまだ少し謎のままだなと思いました。紺碧の～は変化が見え少し自分が納得する感触が生まれたかなと思いました。次は 語り手の心情を考えていきたいです。
＜10/27　言葉の意味のとらえ方＞
希望か諦めか考える時、語り手以外の心情を考えました。ルントウは大人になり格差が生まれ 大変な生活を送っていると改めて実感することができました。希望は光とかそう捉えていたけれど 希望を要望とか自分の思いとかに考えると、あるのかもな と思ってきました。
＜11/6　対話＞
話して、偶像崇拝は誰か、何か、人それぞれで全然違うなと思いました そこで中身が変わってくるのかな と思いました。それをしている意味を考えていこう。自分の思いが言葉にはっきりしたなと思いました。

ながる大きな自信となります。以下に、本年度の個々の取組の成果と課題を明らかにして、次年度の展望を探りたいと思います。

＜成果と課題＞

１　「対話」の大切さが全職員と児童生徒で共通認識され、授業に留まることなく、あらゆる活動の中で位置付きました。さらに、授業づくりでは問いや振り返りの工夫が広がり、対話の充実も見られるようになりました。研究主任を中心に、カリキュラム研修会やＬＣ、さらに各自テーマをもって個人研修に励んできた成果と考えます。

　一方、教育課題として取り組んだ「質」について振り返ると、今後も継続した積み上げの必要性を感じます。全ての教室で「協働の学び」が行われることを土台として、「質」に対する具体的なイメージを共有し取り組んでいきたいと思います。

２　児童生徒の意識を大切に工夫した元気アップ運動や、「すこやかカード」、食育等の連携による取組によって、児童生徒の健康と体づくりのへの意識は高まっています。

　運動については、学年が上がるにつれて２極化する傾向も見られるため、今後も持続的で主体的な取組にしていくために、児童生徒に目的意識を持たせていきたいと思います。

３　自治会活動や歌声づくりを中心に、リーダーとフォロワーの関係づくりに着目して、信頼し合える人間関係づくりに取り組んだことで、相手意識が高まり多様性を認め合える集団づくりが進みました。学校が楽しく安心できる場所と感じている児童生徒が少しずつ伸びていることはうれしく思います。最高学年になってリーダーを経験する小・中学校と違い、９年間の各学年にリーダーの機会を設け、リーダーとフォロワーが入れ替わりながら協力し合う経験をさせることができるのは、小中一貫校の強みだと考えています。

　今後も、各学年にリーダーの経験させながら、フォロワーとしての姿も見届けていきたいと思います。

４　山村留学や特認校制度の活用によって、大町市内はもちろん全国各地より児童生徒が集まる本校は、多様性を認め合う貴重な学びの機会が学校生活の様々な場面にあり、児童生徒の豊かな成長を支えています。また、先生方の努力により、個別の支援によって特別な配慮を要する児童生徒の安心安全な居場所づくりが進みました。

　全国的に配慮を必要とする児童生徒が増加する中で、今後もインクルーシブ教育のさらなる理解と推進が必要と考えています。同時に、特別支援学級では自立に重点を置いた支援を進めていきたいと思います。

５　本年度も学校運営協議会及びパートナー会議によって、児童生徒のキャリア教育や美麻市民科、生活科等の体験活動を充実させていただきました。これにより、体験を重視するホップ期、根拠を探るステップ期、社会との関わりを探るジャンプ期の「協働の学び」を根底で支えていただきました。忙しい中、めざす子ども像を共有していただき、一緒に児童生徒を育てていただいた地域の皆様に改めて感謝いたします。

＜次年度の展望＞

　次年度も「自律した学習者」を育むために、その基盤として「個の生き方や考え方を尊重する学校づくり」を進めます。個の生き方や考え方を最大限に尊重する学び方として、発達段階（４・３・２各ブロック）を考慮しながら「協働の学び」を９年間のカリキュラムで貫く方向を継続します。

1　「協働の学び」の「質」を高めていくために

①スタートラインまでの準備　「質」を高めることに取り組むには、全職員が協働の学びを日常的に取り組んでいることが前提になります。４月のスタートラインまでに各自対話を軸とした授業を日常の授業とし、「質」を高めることへの見通しが持てるように、後半も研修を進めます。

②「質」を高めるとは　目的は「対話」をさせることではなく、授業のねらいを達成することであり、その積み重ねを「自律した学習者」へつなげていくことが大切です。そのために、対話の内容やそれによる児童生徒一人一人の成長にこだわる授業づくりをめざします。

③質の高い「問い」　「問い」は対話の「質」に直結しますし、そもそも「協働の学び」は、児童生徒が主体的に探究していける「問い」なしには始まりません。質の高い「問い」づくりをめざします。そのための教材研究（単元構想・核心）に努めます。教師自身が身をもって行う教材研究なしに子どもに寄り添う（対話をさせる）ことはできません。

④ＬＣの日常化　日々あるのが授業です。日々浮かび上がる「協働の学び」の実践での悩みを聴き合うことができるＬＣを目指します。その中で「質」の高まりについても共有していきます。

⑤「３つの学び」への支援　児童生徒が「３つの学び」が安心してできる、環境づくりや人間関係づくり、学習集団づくりを進めます。

2　児童生徒に目的意識を持たせた元気アップ運動に取り組み、今後も運動と食事・睡眠のサイクルを自己調整していくことができる力を一人一人に育むために、各場面を関連させながら指導していきます。

3　自治会活動と歌声づくりを核として、リーダーとフォロワーの関係に着目した信頼関係づくりに取り組みます。そのために見通しを持って各学年でリーダーを経験させるとともに、フォロワーとしての活動も見届けます。また、各ブロック・学年における集団づくりについても、各経営案に基づいて着実に進めます。

4　インクルーシブ教育を推進しながら特別支援学級においては「自立活動」の充実を図ります。安心安全な居場所を保障しながら、「自立活動」の時間を確保し個に応じて自立に向けた力を育みます。また、そのための研修を保障していきます。

5　学校運営協議会とともに地域との協働を図り、児童生徒の豊かな成長を支えます。豊かな体験はもちろんのこと、多様な大人との関わりは自立やキャリア形成に不可欠です。また、地域の学校としてよりよい学校づくりを通して、よりよい地域づくりに貢献します。

大町市立美麻小中学校　校長　中 原　敏